

【事例3】

「お金(貴重品
など)が盗まれた」「〇〇が盗
んだ」と言うの
ですが…



本人の
気持ち

- ・自分が失くすはずがない
- ・誰かが盗んだに違いない
- ・誰かに嫌がらせを受けている

望ましくない対応例

- ・「自分でしまい忘れたのでは？」と指摘する
- ・一緒に探して、疑われていた人が見つけてしまう
⇒「やっぱりお前が犯人だ」と思われてしまう

* 普段からできること…

寂しい気持ちや不安な気持ちが、「盗まれた」という妄想につながってしまうことがあるため、気持ちが落ち着いているときに、本人に、不安に思っていることはないか、話を聞く機会を増やして、不安感を和らげる。



物盗られ妄想は、一番身近にいて世話を焼いてくれる人、すなわち一番、介護をしてくれる家族を、犯人として考えてしまう傾向があります。

他の家族の協力が得られる場合は、しばらくは距離を取り、顔を合わせないようにするのも有効な方法です。

＜対応例1＞

肯定も否定もしないで「それは大変ですね」と、落ち着いて話を聞く。

＜対応例2＞

「一緒に探しましょう」と声をかけて、協力する姿勢を見せ、本人が見つげ出せるように誘導する。

見つかったら、「見つかってよかったですね」と必ず肯定的な声をかける。

＜対応例3＞

一緒に探しながら、本人が好きな番組や食事の話など、別の話を切り出し、気持ちを落ち着かせる。

＜対応例4＞

「財布はかばんの中」や「通帳は引き出しに入れる」などのメモを書いて、同じ場所に片付けができるように工夫する。